

II. 協議事項

1. 会費値上げについて

・3月24日正副理事長会にての審議の報告をいたします。

<結論>

今回は、会費値上げを行わない。

<根拠>

1. ここ数日で社会情勢(ウクライナ状況などの影響)が大きく変わり、エネルギー関連や生活用品に至るまで、値上げラッシュが続いている中で、会費値上げは連盟脱会の要因になりかねない。

また、コロナ禍の「小バブル」も一過性ものと考えれば、収束後はある程度元に戻る可能性が高い。このタイミングでの値上げは良くない。脱会を誘発して、値上げより逆に会費収入が減少する可能性が高い。

2. 関東連盟、関西連盟の状況

- ①関東連盟は逆に会費を段階的に下げて、加盟数を上げる対策をとっている。

加盟数を上げての会費収入増とJGRAの公益財団としての加盟数確保に動いている。

- ②関西連盟については、会員数90場を切る状況の中で、脱会の要因となる会費値上げは避けているようです。但し、特別会費1万円(任意)で、会員のご協力をいただいた経緯がある。(実績30場 30万円の臨時収入)

以上のように値上げは実施していない。

3. 連盟加盟継続で会費金額を維持して、併せて新入会で会費収入を増やす対策をもう一度チャレンジする。これには、正会員の協力が必要となる。

4. 会員数の減少、ジュニア財団活動停止、愛知県ゴルフ連盟の助成金中止などになった場合は連盟経費削減(事務局並びに連盟事業の縮小など)を行い、身の丈のあった運営を行う。

5. 当面の経費(事務所経費、人件費)について

- ①事務所賃貸料は、2020年に14年ぶりの値上げ(8%)がありましたが当面はない。

- ②人件費については、ジュニア財団のイベントで、業務が増えることや休日出勤に対しての手当など賃上げは行うこととなりますが、ジュニア財団の活動が中止になった時点で賃金の見直しは行うなどで対応する。

6. 値上げは行っているとの意見について

ここ数十年値上げをしていないとの事ですが、2008年JGRAを退会した折に、JGRA納入金も含めての年会費を徴収していたとの考え方では、実質退会した時点でJGRAの加入金分値下げをしなかった経緯がある。実質の値上げではないか。

<事例>

退会を防ぎ、新入会を増やす対策で会費収入の確保をする。

- ①JGRAのような「期間限定入会」の実施。
- ②連盟活動をアピール(広報ルームの活用)して、入会促進を図る。